

千葉県における自殺の統計

【平成 29 年度版（平成 28 年統計データより）】

平成 30 年 1 月
千葉県衛生研究所

目次

I	はじめに	1
II	方法	1
1	用いた統計資料	1
2	年齢調整死亡率・標準化死亡率（SMR）の算出	2
III	自殺の現状	3
1	自殺者数の推移	3
2	自殺死亡率の推移	3
3	性・年齢階級別の状況	4
4	原因・動機別の状況	5
5	職業別の状況	5
6	地域別の状況	6
(1)	保健所別の状況	6
(2)	市町村別の状況	8
7	月別自殺者数の推移	12
8	自殺との関連が考えられる事象の状況	13
(1)	年齢階級	13
(2)	完全失業率	13
(3)	精神保健に関する電話相談等	14
(4)	千葉いのちの電話への相談件数	15
(5)	救急搬送件数	16
IV	自殺統計表（資料編）	別冊

千葉県における自殺の統計【平成 29 年度版（平成 28 年統計データより）】

平成 30 年 1 月 25 日
千葉県衛生研究所

I はじめに

全国の自殺者数は平成 10 年を境に急増し、毎年 3 万人前後の高い水準で推移してきた。平成 18 年の自殺対策基本法の施行に伴い取り組みの強化が行われ、人口動態統計による自殺者数は平成 22 年以降減少を続け、平成 28 年には 21,017 人となった。

千葉県では平成 18 年度から千葉県自殺対策連絡協議会を設置し、平成 22 年度から 29 年度（平成 28 年度に 1 年間延長）を期間とする「千葉県自殺対策推進計画」を策定した。本県の平成 28 年の自殺者数は平成 10 年以降で最も少ない 1,026 人となり、計画目標の自殺死亡率で対平成 17 年度比 20% 減を達成し、16.7（目標値 17.6）となった。

しかし、全国の年間自殺者数は依然として 2 万人を超えており、20～30 歳代における死因の第一位となっている。平成 28 年 4 月の自殺対策基本法の改正や平成 29 年 7 月の自殺総合対策大綱の改定により、当面の重点施策に「地域レベルの実践的な取組への支援を強化する」「子ども・若者の自殺対策をさらに推進する」が新たに加わり、本県においても「第 2 次千葉県自殺対策推進計画」を策定し、平成 30 年度からスタートする。

衛生研究所では、自殺対策を推進するための基礎資料として、自殺に関する統計のとりまとめを行っており、平成 19 年度から本書を公表している。

II 方法

千葉県の自殺の現状とその関連要因の把握のため、既存の統計資料を用いてデータの整理を行なうと共に、健康福祉センター（保健所）・市町村別の年齢調整死亡率、標準化死亡比を算出した。

1 用いた統計資料

(1) 人口（平成 24 年～28 年）

国：厚生労働省人口動態調査 人口動態統計「年次、性、年齢別人口、総数、男、女」

統計局発行「推計人口 年齢（5 歳階級）、男女別、各月 1 日現在人口－総人口、日本人人口」

県及び市町村：千葉県総合企画部統計課 「千葉県年齢別・町丁字別人口調査における登録人口」

(2) 自殺者数（平成 24 年～28 年）

国：厚生労働省人口動態調査 「死亡数、性・年齢（5 歳階級）・死因（死因簡単分類）別」

県及び市町村：千葉県健康福祉部健康福祉指導課「千葉県衛生統計年報（人口動態調査）」

(3) 地域における自殺の基礎資料（平成 28 年）

（厚生労働省自殺対策推進室：警察統計を基に再集計したもの）

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaihashukushi/jisatsu/jisatsu_chiiki2016.html（2018/1/4 確認）

(4) 平成 28 年中における自殺の状況（厚生労働省自殺対策推進室、警察庁生活安全局生活安全企画課）

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaihashukushi/jisatsu/jisatsu_year.html（2018/1/4 確認）

(5) 厚生労働省：平成 29 年版「自殺対策白書」

<http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/jisatsu/17/index.html>（2018/1/4 確認）

- (6) 総務省統計局：労働力調査（基本集計）都道府県別結果 時系列データ
第 6 表 完全失業率年平均（平成 9 年～28 年）
<http://www.stat.go.jp/data/roudou/pref/>（2018/1/4 確認）
- (7) 精神保健福祉センターへの自殺に関する相談
千葉県衛生統計年報（平成 21 年度～28 年度）
第 7 部「衛生行政報告例」第 6 表 精神保健福祉センターにおける相談等（2018/1/4 確認）
- (8) 千葉いのちの電話
電話相談件数：2016 年度問題内容別相談件数状況
「社会福祉法人千葉いのちの電話」から受領
- (9) 千葉県防災危機管理部消防課：消防防災年報（平成 16 年版～28 年版）
9.救急・救助業務 第 2 表「事故種別救急出場件数及び搬送人員」（2018/1/4 確認）

2 年齢調整死亡率・標準化死亡比（SMR）の算出

人口規模の小さい地域において、人口や自殺者数の変動の影響を受けやすいため、千葉県、保健所管内別、市町村別の年齢調整死亡率、標準化死亡比（SMR）の算出では、人口、自殺者数ともに平成 24 年～28 年までの 5 ヶ年の合計数を用いて算出した。標準化死亡比（SMR）算出の基準人口集団の年齢階級別死亡率は当該年分（5 年分）の全国人口値を、年齢調整死亡率の基準人口は昭和 60 年モデル人口を用いた。

【参考】

***1 粗死亡率** 人口 10 万人当たりの死亡率

$$\text{粗死亡率} = \frac{\text{ある期間の死亡数}}{\text{同じ期間の人口}} \times 100,000$$

***2 年齢調整死亡率** 年齢構成が著しく異なる人口集団の間での死亡率や、特定の年齢層に偏在する死因別死亡率などについて、その年齢構成の差を取り除いて比較する場合に用いる。基準人口には「昭和 60 年モデル人口」を用いている。

$$\text{年齢調整死亡率} = \frac{\left\{ \begin{array}{l} \text{観 察 集 団 の} \times \text{基準人口のその} \\ \text{各年齢階級の死亡率} \quad \text{年齢階級の人口} \end{array} \right\} \text{の各年齢階級の総和}}{\text{基準人口の総数}} \times 100,000$$

***3 標準化死亡比（SMR）** 年齢構成の差異を基準の死亡率で調整した値（期待死亡数）に対する現実の死亡数の比のこと。主に小規模人口の地域の比較に用いる。ここでは基準集団を国としている。

$$\text{標準化死亡比 (SMR)} = \frac{\text{観察集団の死亡数}}{\left\{ \begin{array}{l} \text{基 準 集 団 の} \times \text{観察集団のその} \\ \text{各年齢階級の死亡率} \quad \text{年齢階級の人口} \end{array} \right\} \text{の各年齢階級の総和}} \times 100$$

***4 標準化死亡比の経験的ベイズ推定値（EBSMR）** 市町村別の標準化死亡比について、自殺者数の少なさに起因する死亡率の変動の影響を抑え、より安定性の高い指標で地域間の比較を可能としたもの。EBSMR は、国立保健医療科学院ホームページ
http://www.niph.go.jp/soshiki/gijutsu/download/ebpoig/index_j.html で公開されている「EB estimator for Poisson-Gamma model [Version2.1]」を使用して算出した。

Ⅲ 自殺の現状

1 自殺者数の推移

千葉県の上自殺者数は平成 10 年以降 1,300 人前後で推移してきた。平成 21 年～23 年は 1,300 人以上であったが、平成 24 年に 1,215 人に減少し平成 26 年までの 3 年はほぼ横ばいで推移、平成 27 年には 1,182 人、平成 28 年には 1,026 人に減少し、平成 10 年以降で最も少なかった（図 1）。

（資料編 P5 統計表 2 参照）

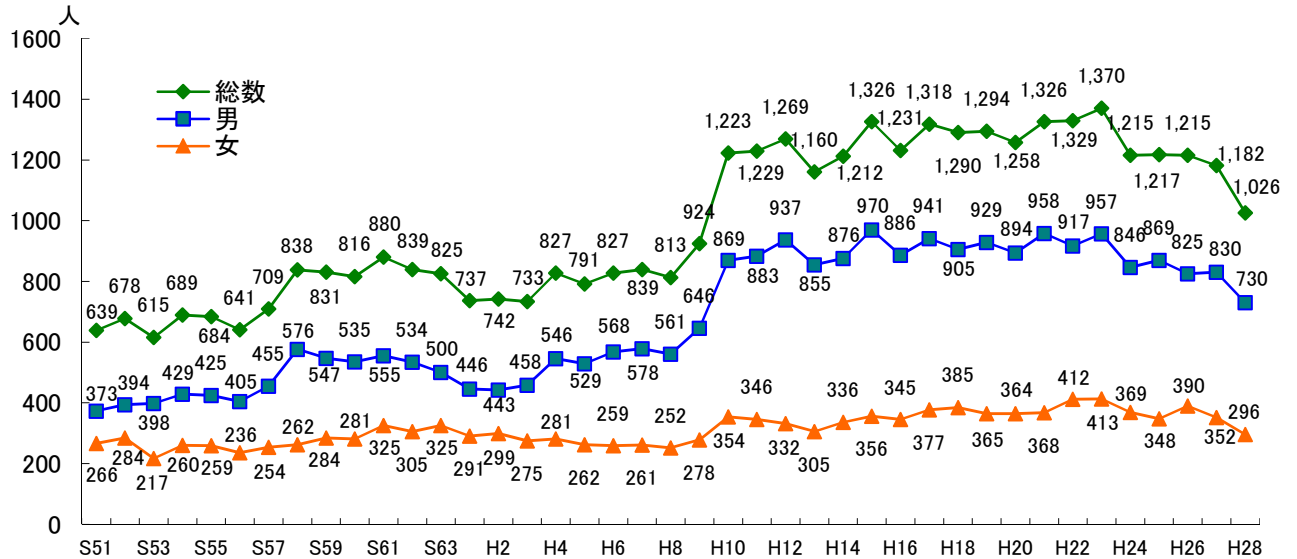


図1 昭和51年以降の自殺者数の推移(千葉県)

2 自殺死亡率の推移

千葉県の上人口 10 万人当りの自殺者数（以下、粗死亡率*1という。）は、平成 21 年まで全国より 2.0 以上低い値で推移していたが、全国は平成 21 年から減少傾向が現れたのに対し、千葉県は平成 24 年から減少傾向となったため、その間、全国との差は縮小し、平成 28 年は全国 16.8、千葉県 16.7 となった（図 2）。（資料編 P6、統計表 3 参照）

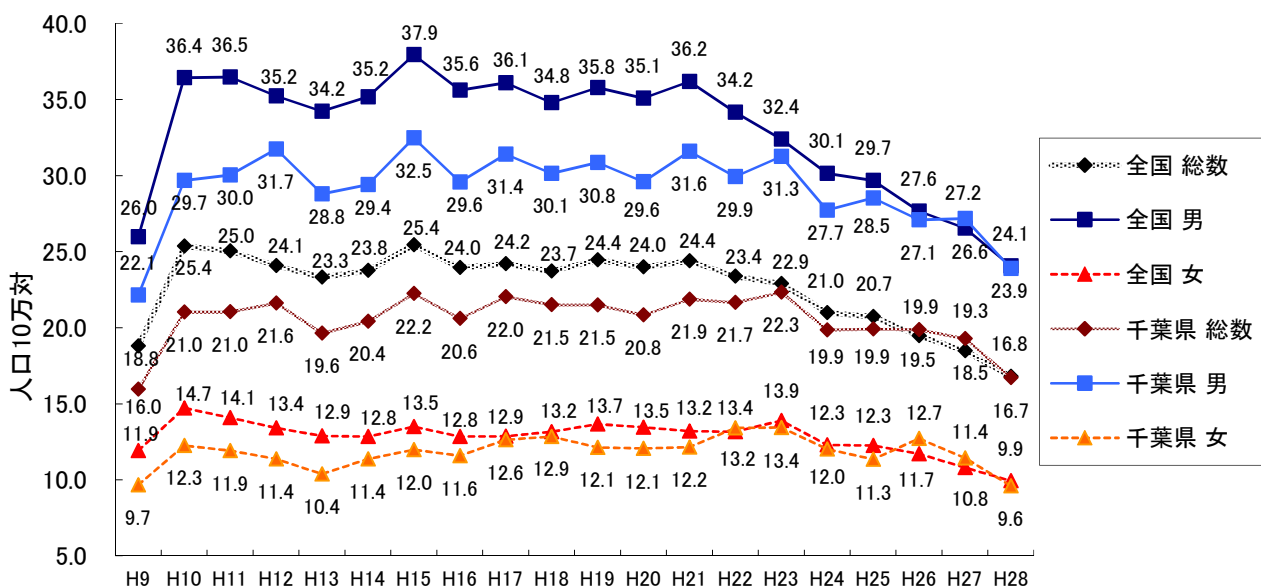


図2 粗死亡率の年次推移

3 性・年齢階級別の状況

千葉県性の年齢階級別の自殺死亡率を平成24年と平成28年で比較すると、男性は40~54歳及び65~84歳で減少していたが、39歳以下では変化が小さく、85歳以上で増加していた。

女性は、25~44歳及び60~79歳で減少していたが、20~24歳で増加していた。

男女比は5年間ほぼ変わらず、平成28年は自殺者総数では男性が約7割を占め、女性の約2.5倍であった。(図3)。(資料編P5、24 統計表2、16参照)

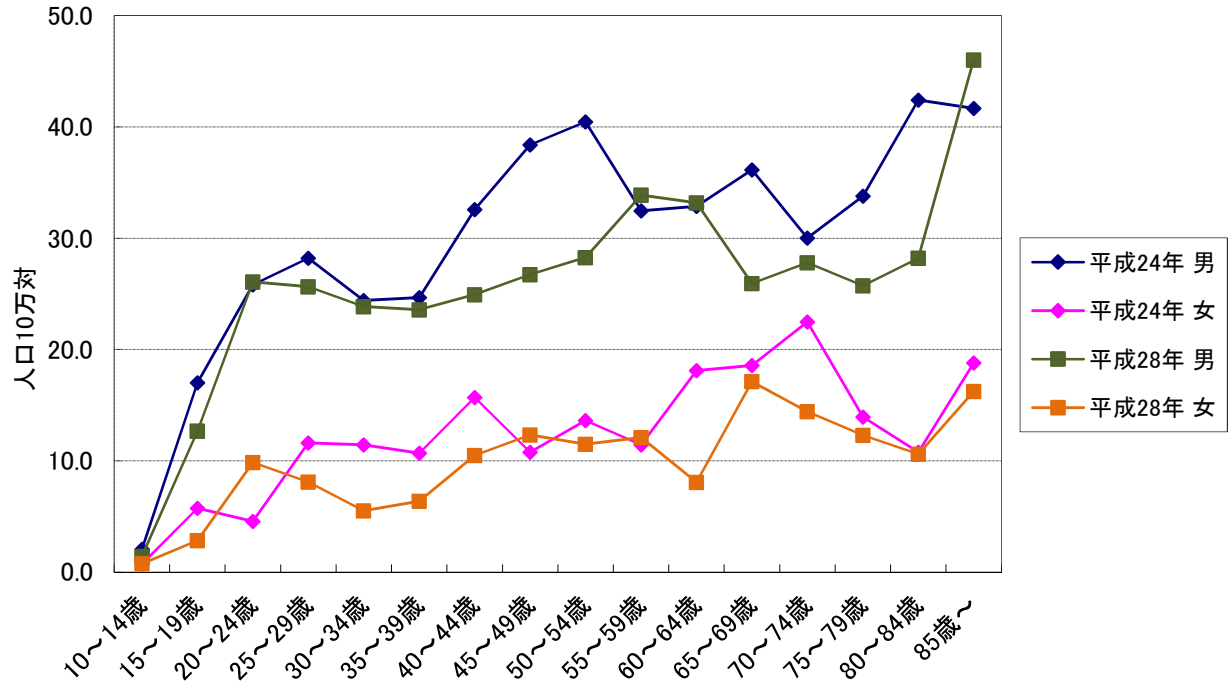


図3 性・年齢階級別 自殺死亡率(年次比較)千葉県

65歳未満の平成28年人口動態統計の死因別では、自殺による死亡者数は前年同様、全体で8位であった。しかし年齢階級別にみると、15~29歳までは男女とも自殺が1位であり、総数では10~14歳、35~39歳、50~54歳、60~64歳は前年より順位が1つ下がったが、15~34歳は平成23年以降1位が続いている(表1)。(資料編P8 統計表5参照)

表1 平成28年の自殺の年齢階級別死因順位(千葉県)

	10 14 歳	15 19 歳	20 24 歳	25 29 歳	30 34 歳	35 39 歳	40 44 歳	45 49 歳	50 54 歳	55 59 歳	60 64 歳
総数	2	1	1	1	1	2	2	3	4	4	5
男	3	1	1	1	1	1	1	3	4	4	5
女	2	1	1	1	2	3	2	3	4	4	5

*10歳未満は自殺者なしのため省略。

4 原因・動機別の状況

平成 28 年の警察統計を基に再集計された厚生労働省自殺対策推進室の自殺統計によると、住所地が県内であった自殺者 1,020 人のうち、原因・動機の特定できた者は 750 人で全体の 73.5%であった。警察統計では、自殺の原因や動機が特定できた者における原因・動機（平成 19 年から一人につき 3 つまで計上）が集計されており、平成 28 年の延べ原因数は 1,021 件であった。各原因・動機の割合は、健康問題 68.4%、経済・生活問題 24.0%、家庭問題 18.9%、勤務問題 11.5%であり、全国と同様の傾向であった（図 5）。（資料編 P22 統計表 14-2 参照）

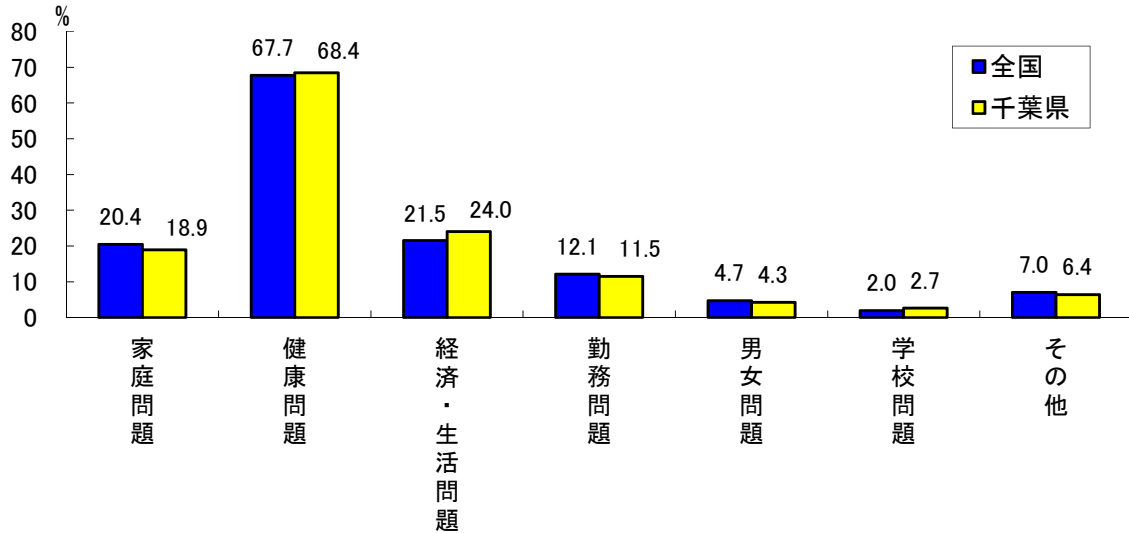
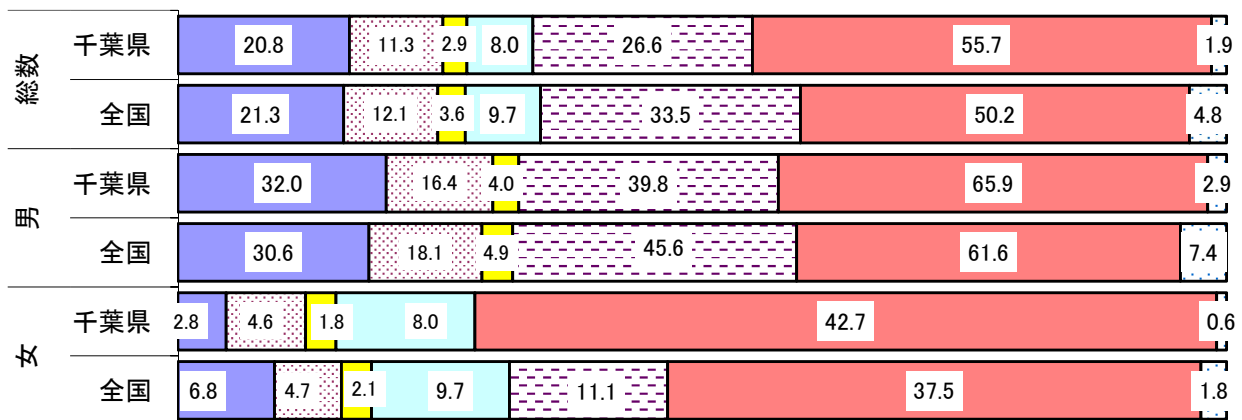


図5 平成28年自殺の原因・動機特定者に占める各原因の割合(全国・千葉県)

5 職業別の状況

平成 28 年の内閣府自殺対策推進室の自殺統計から職業別自殺死亡率をみると、総数ではその他無職者（年金・雇用保険等生活者含む）が全国を上回っていた（全国 50.2、千葉県 55.7）。男性は自営業・家族従業者（全国 30.6、千葉県 32.0）及びその他の無職者（年金・雇用保険等生活者含む）（全国 61.6、千葉県 65.9）、女性はその他無職者（年金・雇用保険等生活者含む）（全国 37.5、千葉県 42.7）が、全国を上回っていた（図 6）。（資料編 P20、25 統計表 13、17 参照）



数値：自殺死亡率(人口10万対) ※人口：平成 27 年国勢調査

■自営業・家族従業者 □被雇用・勤め人 ■学生・生徒等 □主婦 □失業者 ■その他の無職者(年金・雇用保険等生活者含む) □不詳

図6 自殺者の性別・職業(全国・千葉県)

6 地域別の状況

(1) 保健所別の状況

表2 平成24年～28年の性別、保健所別自殺者数・男女比、年齢調整死亡率(人口10万対)

		千葉県	習志野	市川	松戸	野田	印旛	香取	海匝	山武
自殺者数	総数	5,855	406	530	710	164	665	131	187	236
	男	4,100	273	364	494	114	455	94	135	178
	女	1,755	133	166	216	50	210	37	52	58
自殺者数男女比	男/女	2.3	2.1	2.2	2.3	2.3	2.2	2.5	2.6	3.1
県に占める割合(%)	総数	100.0	6.9	9.1	12.1	2.8	11.4	2.2	3.2	4.0
	男	100.0	6.7	8.9	12.0	2.8	11.1	2.3	3.3	4.3
	女	100.0	7.6	9.5	12.3	2.8	12.0	2.1	3.0	3.3
年齢調整死亡率	総数	16.2	14.9	14.5	15.6	18.3	16.0	17.9	17.2	19.4
		長生	夷隅	安房	君津	市原	千葉市	船橋市	柏市	
自殺者数	総数	175	114	157	365	280	848	538	349	
	男	136	82	120	254	209	584	366	242	
	女	39	32	37	111	71	264	172	107	
自殺者数男女比	男/女	3.5	2.6	3.2	2.3	2.9	2.2	2.1	2.3	
県に占める割合(%)	総数	3.0	1.9	2.7	6.2	4.8	14.5	9.2	6.0	
	男	3.3	2.0	2.9	6.2	5.1	14.2	8.9	5.9	
	女	2.2	1.8	2.1	6.3	4.0	15.0	9.8	6.1	
年齢調整死亡率	総数	19.0	22.6	19.5	18.9	17.9	15.5	15.5	15.8	

出典：千葉県健康福祉部健康福祉指導課「千葉県衛生統計年報（人口動態調査）」表13-1、年齢調整死亡率は衛生研究所で算出

自殺者の男女比では、高い順に3か所挙げると、長生、安房、山武であり、低い順では習志野、船橋市、印旛となっていた（表2、小数点以下第2位で順位付け）。

年齢調整死亡率*2でみると、総数で県の値を上回っているのは、夷隅、安房、山武、長生、君津、野田、香取、市原、海匝であり、性別にみると、男性で夷隅、安房、長生、山武、君津、海匝、市原、香取、野田であり、女性では夷隅、野田、君津、印旛、船橋市、香取、松戸、千葉市であった。夷隅、君津、香取、野田では男女とも県の値を上回っていた（表2、図7～8）。

（資料編P13、14 統計表8、9参照）

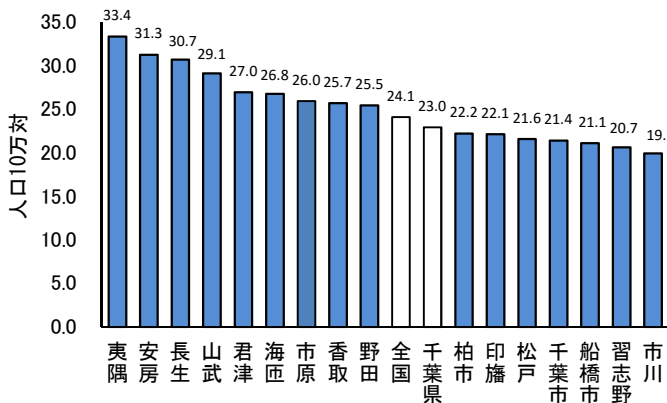


図7 保健所別、H24年～28年合計自殺者数による年齢調整死亡率(男)

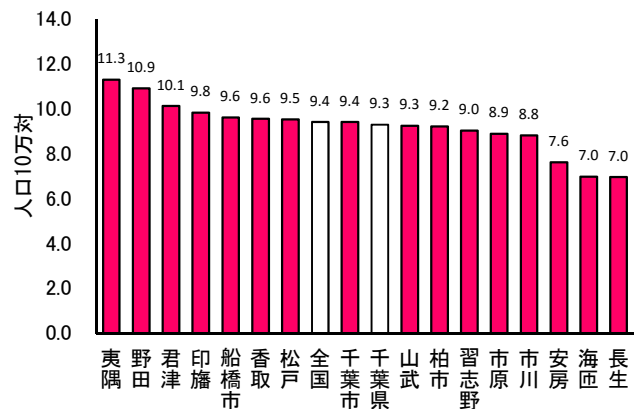


図8 保健所別、H24年～28年合計自殺者数による年齢調整死亡率(女)

平成 24 年～28 年の自殺者について、35 歳未満、35～64 歳、65 歳以上で 3 区分し、年齢区分別の死亡率を比較した。各区分で死亡率の最大値と最小値は、35 歳未満で 13.9 と 8.8、35～64 歳で 35.7 と 20.5、65 歳以上で 32.2 と 19.5 であり、いずれも 1.6～1.7 倍の地域差がみられた。

年齢区分別の死亡率を地域別でみると、すべての地域において 35 歳未満の死亡率が最も低かった。35～64 歳と 65 歳以上の死亡率を比べると、松戸、山武、夷隅、安房、市原、柏市の保健所管内で、35～64 歳の死亡率が 65 歳以上の死亡率を上回っていた（表 3）。

表 3 平成 24 年～28 年の自殺者数に基づく、年齢区分別、保健所別死亡率(人口 10 万対)

	千葉県	習志野	市川	松戸	野田	印旛	香取	海匝	山武
35 歳未満	10.6	9.3	8.8	9.5	12.6	11.5	10.5	10.5	13.9
35～64 歳	22.5	20.9	20.5	22.8	24.6	21.2	26.1	24.8	26.3
65 歳以上	23.9	22.8	24.4	21.6	26.1	23.9	27.6	28.1	23.7
	長生	夷隅	安房	君津	市原	千葉市	船橋市	柏市	
35 歳未満	11.3	13.8	11.0	11.8	12.5	10.1	10.7	11.8	
35～64 歳	27.2	35.7	29.2	26.1	24.7	20.7	20.8	20.6	
65 歳以上	27.3	32.2	26.3	29.1	22.1	23.5	21.6	19.5	

年齢区分別の死亡率を性別で最大値と県の値をみると、35 歳未満の男性は 21.7 と 15.0、女性は 8.5 と 6.0、35～64 歳の男性は 52.5 と 32.1、女性は 18.0 と 12.3、65 歳以上の男性は 49.6 と 33.2、女性は 22.6 と 16.2 であり、35～64 歳の男性において、県の値と比べ 1.6 倍の地域差がみられた（図 9～14）。

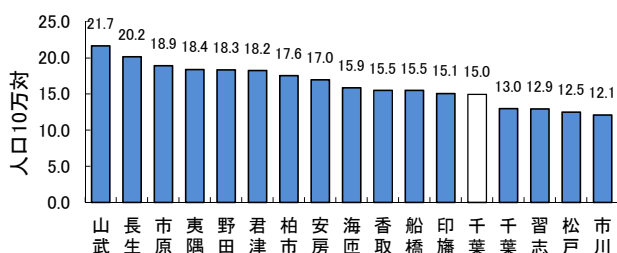


図9 H24年～28年保健所別、35歳未満死亡率(男)

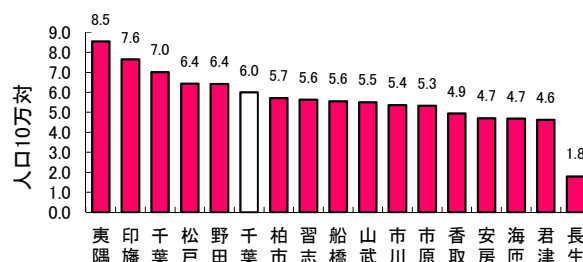


図10 H24年～28年保健所別、35歳未満死亡率(女)

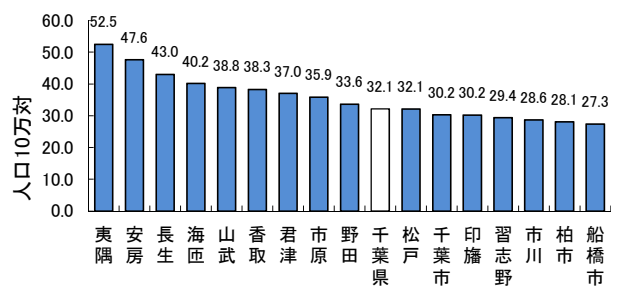


図11 H24年～28年保健所別、35～64歳死亡率(男)

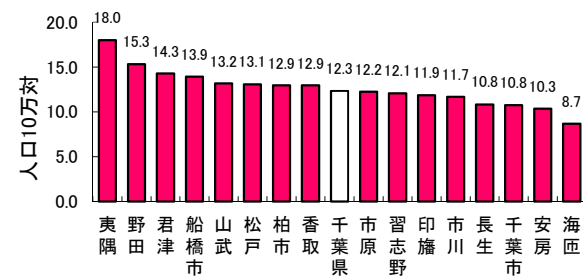


図12 H24年～28年保健所別、35～64歳死亡率(女)

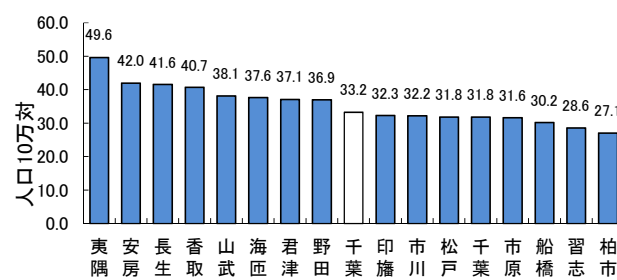


図13 H24年～28年保健所別、65歳以上死亡率(男)

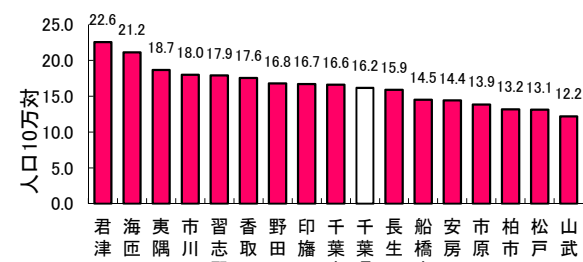


図14 H24年～28年保健所別、65歳以上死亡率(女)

(2) 市町村別の状況

表4 平成24年～28年の自殺者数に基づく上位10市町村

	総数		男		女				
	人数	%	人数	%	人数	%			
	千葉県	5,855	100	千葉県	4,100	100	千葉県	1,755	100
1	千葉市	848	14.5	千葉市	584	14.2	千葉市	264	15.0
2	船橋市	538	9.2	船橋市	366	8.9	船橋市	172	9.8
3	松戸市	450	7.7	松戸市	312	7.6	松戸市	138	7.9
4	市川市	416	7.1	市川市	280	6.8	市川市	136	7.7
5	柏市	349	6.0	柏市	242	5.9	柏市	107	6.1
6	市原市	280	4.8	市原市	209	5.1	市原市	71	4.0
7	佐倉市	179	3.1	佐倉市	128	3.1	佐倉市	51	2.9
8	八千代市	168	2.9	八千代市	117	2.9	八千代市	51	2.9
9	野田市	164	2.8	野田市	114	2.8	野田市	50	2.8
10	木更津市	144	2.5	木更津市	101	2.5	習志野市	45	2.6
	その他計	2,319	39.6	その他計	1,647	40.2	その他計	670	38.2

5年間の合計自殺者数の少ない市町村をみると、男性では長柄町が3人、神崎町・長南町4人、酒々井町5人、睦沢町7人、御宿町8人、東庄町・芝山町9人で、これらの町では1年間の自殺者数は平均2人未満であった。女性では神崎町・一宮町・長柄町0人、芝山町1人、九十九里町・長南町・鋸南町2人、東庄町・白子町3人、長生村・御宿町4人でこれらの町村の1年間の自殺者数は平均1人未満であった（資料編P16～17 統計表10）。

5年間の自殺の年齢調整死亡率でみると、5年間の人口の総和が男女とも10万人以上の33市における最大値と最小値は、男性34.1と14.9、女性13.6と6.4であり、男女ともに2倍を超える地域差がみられた。男女いずれかが10万人未満の21市町村では、男性42.1と9.2、女性18.5と0であった。わずかな自殺者数の増減で年齢調整死亡率が大きく変化するため、自殺者数が少なくても年齢調整死亡率が高くなる場合もあるので、市町村間の比較にはその点に注意する必要がある（表5、図15）。

（資料編P18、27 統計表11、21参照）

表5 平成24年～28年の合計でみた市町村別自殺の年齢調整死亡率の順位

表5-1 人口の和が男女とも10万人以上の33市について

表5-1-1 低い5市

順位	男			女		
	市町村名	年齢調整死亡率 (人口10万対)	人数	市町村名	年齢調整死亡率 (人口10万対)	人数
1	成田市	14.9	53	浦安市	6.4	30
2	習志野市	16.0	76	旭市	6.5	16
3	浦安市	19.3	84	館山市	6.7	11
4	市川市	20.1	280	いすみ市	7.4	12
5	流山市	20.5	95	銚子市	7.4	21

表5-1-2 高い5市

順位	男			女		
	市町村名	年齢調整死亡率 (人口10万対)	人数	市町村名	年齢調整死亡率 (人口10万対)	人数
1	大網白里市	34.1	46	八街市	13.6	26
2	館山市	33.9	48	山武市	12.9	21
3	いすみ市	32.0	38	香取市	12.0	29
4	茂原市	32.0	79	木更津市	11.4	43
5	袖ヶ浦市	30.5	49	野田市	10.9	50

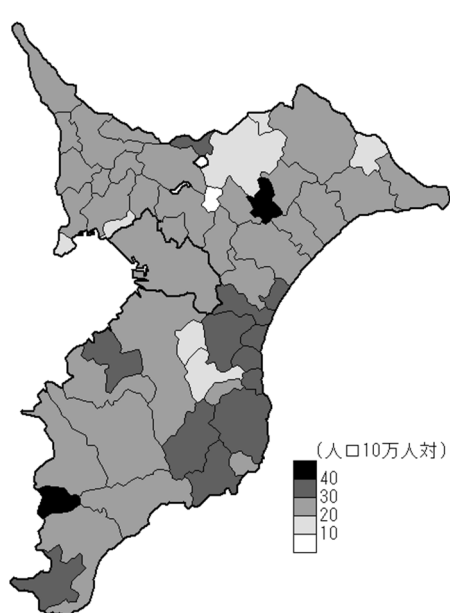
表 5-2 人口の和が男女いずれかが 10 万人未満の 21 市町村について

表 5-2-1 低い 5 市町村

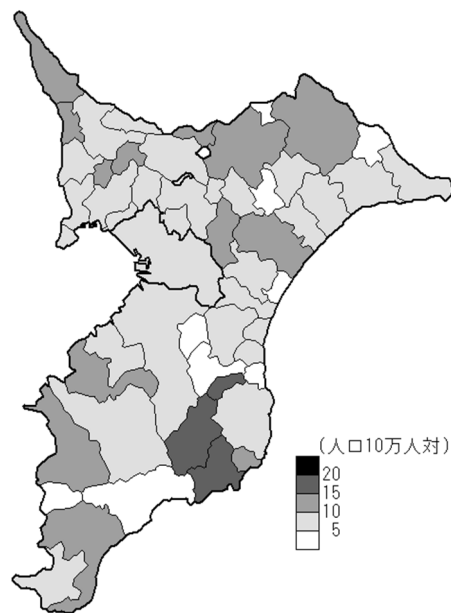
順位	男			女		
	市町村名	年齢調整死亡率 (人口 10 万対)	人数	市町村名	年齢調整死亡率 (人口 10 万対)	人数
1	酒々井町	9.2	5	神崎町	0.0	0
2	東庄町	11.8	9	一宮町	0.0	0
3	神崎町	14.3	4	長柄町	0.0	0
4	長柄町	18.7	3	東庄町	0.7	3
5	長南町	19.1	4	鋸南町	1.4	2

表 5-2-2 高い 5 市町村

順位	男			女		
	市町村名	年齢調整死亡率 (人口 10 万対)	人数	市町村名	年齢調整死亡率 (人口 10 万対)	人数
1	鋸南町	42.1	10	大多喜町	18.5	8
2	芝山町	40.2	9	睦沢町	16.8	6
3	勝浦市	39.7	24	勝浦市	15.5	8
4	九十九里町	36.9	15	栄町	14.7	13
5	長生村	36.3	20	南房総市	13.6	15



年齢調整死亡率 (男)



年齢調整死亡率 (女)

図 15 平成 24 年～28 年の合計でみた市町村別自殺年齢調整死亡率

平成 24 年～28 年の自殺者について、35 歳未満、35～64 歳、65 歳以上で 3 区分し、年齢区分別の死亡率を性別に市町村で比較した。死亡率の高い市町村は、男女とも比較的人口の少ない市町村が多く、1 人の自殺者の増加により死亡率が大きく変動していた。このことから、死亡率の増減をみる際や市町村間の比較には注意をする必要がある (表 6～8、図 16～17)。

表 6 平成 24 年～28 年自殺者数における、性・年齢区分別死亡率の市町村比較

表 6-1 死亡率が低い市町村（同順位を除く 5 位まで）

	35 歳未満		35～64 歳		65 歳以上	
	市町村名	粗死亡率	市町村名	粗死亡率	市町村名	粗死亡率
男性						
1	酒々井町、神崎町、東庄町、睦沢町、長生村、白子町、大多喜町	0.0	長柄町、長南町	0.0	酒々井町	7.5
2	成田市	7.4	東庄町	12.9	横芝光町	11.6
3	多古町	8.4	酒々井町	18.9	長柄町	18.5
4	習志野市	9.5	成田市	21.9	多古町	19.0
5	我孫子市	10.9	習志野市	23.2	成田市	22.8
女性						
1	鴨川市、袖ヶ浦市、匝瑳市、神崎町、東庄町、九十九里町、芝山町、横芝光町、一宮町、長生村、白子町、長柄町、長南町、御宿町、鋸南町	0.0	神崎町、東庄町、一宮町、睦沢町、長柄町、長南町、鋸南町	0.0	神崎町、芝山町、一宮町、長柄町	0.0
2	茂原市	1.4	九十九里町、銚子市	5.9	大網白里市	2.8
3	君津市	1.5	浦安市	6.2	九十九里町	6.2
4	館山市	3.1	多古町	6.8	酒々井町	6.7
5	鎌ヶ谷市	3.2	印西市	6.9	長生村	8.4

表 6-2 死亡率が高い市町村（5 位まで）

	35 歳未満		35～64 歳		65 歳以上	
	市町村名	粗死亡率	市町村名	粗死亡率	市町村名	粗死亡率
男性						
1	芝山町	49.3	鋸南町	85.4	長生村	94.7
2	長柄町	37.7	長生村	70.7	芝山町	79.3
3	長南町	35.0	白子町	70.4	大多喜町	76.7
4	九十九里町	32.6	勝浦市	65.2	睦沢町	72.1
5	大網白里市	26.7	大多喜町	58.5	東庄町	67.7
女性						
1	睦沢町	20.7	大多喜町	32.0	睦沢町	71.3
2	勝浦市	17.8	御宿町	27.9	栄町	43.8
3	大多喜町	15.5	長生村	20.0	大多喜町	39.9
4	南房総市	13.1	鎌ヶ谷市	19.0	袖ヶ浦市	36.8
5	栄町	12.3	山武市	18.0	匝瑳市	27.4

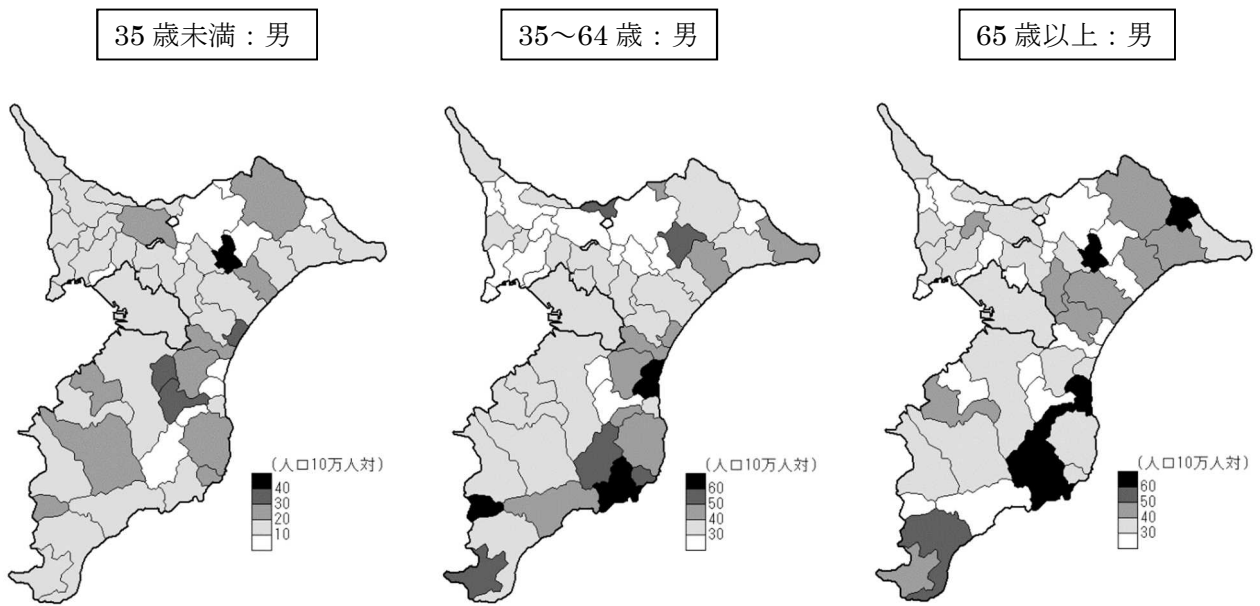


図16 平成24年～28年の性・年齢区分別自殺死亡率(男)

表7 年齢区分別・死亡率区分別の該当市町村数(男性)

35歳未満		35～64歳		65歳以上	
死亡率	市町村数	死亡率	市町村数	死亡率	市町村数
$40 \leq x$	1	$60 \leq x$	4	$60 \leq x$	7
$30 \leq x < 40$	3	$50 \leq x < 60$	5	$50 \leq x < 60$	1
$20 \leq x < 30$	10	$40 \leq x < 50$	9	$40 \leq x < 50$	9
$10 \leq x < 20$	30	$30 \leq x < 40$	21	$30 \leq x < 40$	19
$x < 10$	10	$x < 30$	15	$x < 30$	18

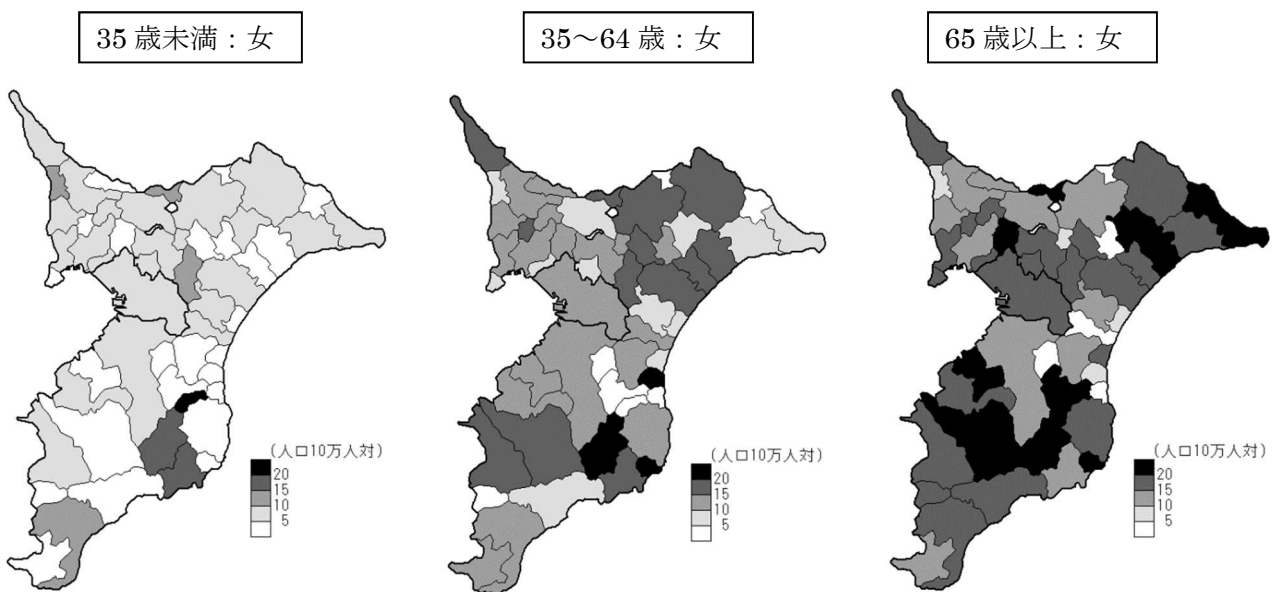


図17 平成24年～28年の性・年齢区分別自殺死亡率(女)

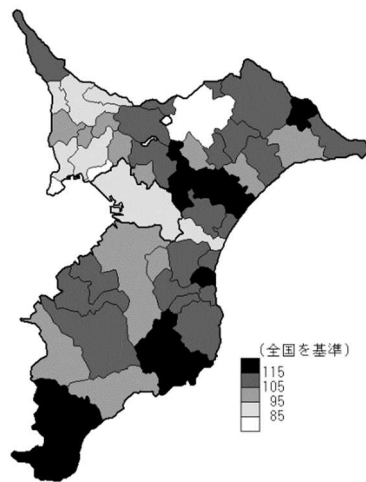
表 8 年齢区分別・死亡率区分別の該当市町村数(女性)

35歳未満		35～64歳		65歳以上	
死亡率	市町村数	死亡率	市町村数	死亡率	市町村数
$20 \leq x$	1	$20 \leq x$	3	$20 \leq x$	12
$15 \leq x < 20$	2	$15 \leq x < 20$	13	$15 \leq x < 20$	22
$10 \leq x < 15$	4	$10 \leq x < 15$	19	$10 \leq x < 15$	11
$5 \leq x < 10$	23	$5 \leq x < 10$	12	$5 \leq x < 10$	4
$x < 5$	24	$x < 5$	7	$x < 5$	5

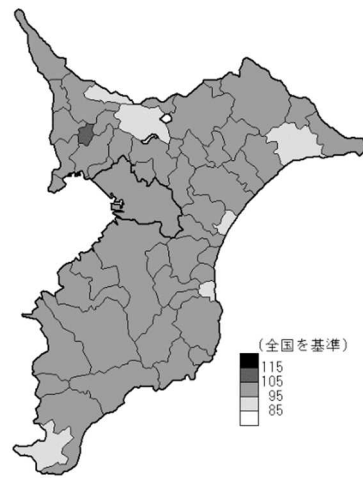
【参考】平成24年～28年の合計でみた市町村別自殺の標準化死亡比の経験的ベイズ推定値（EBSMR）

（※標準化死亡比は、年齢調整死亡率と同様に人口の年齢構成の異なる地域間で死亡の状況を比較できるようにした指標であり、ここでは全国の標準化死亡比を100として算出した。

さらに自殺者数の少なさに起因する死亡率の変動の影響を抑え、より安定性の高い指標での地域間の比較を可能とするため、標準化死亡比の経験的ベイズ推定値を算出している。）



EBSMR（男）



EBSMR（女）

7 月別自殺者数の推移

月別の自殺者数について、平成24年～28年までを合計した値の動向を千葉県と全国で比較すると、千葉県は男性で3月、次いで5月にピークがみられ、全国と同様の傾向がみられた（図18～19）。

（資料編 P12 統計表 7 参照）

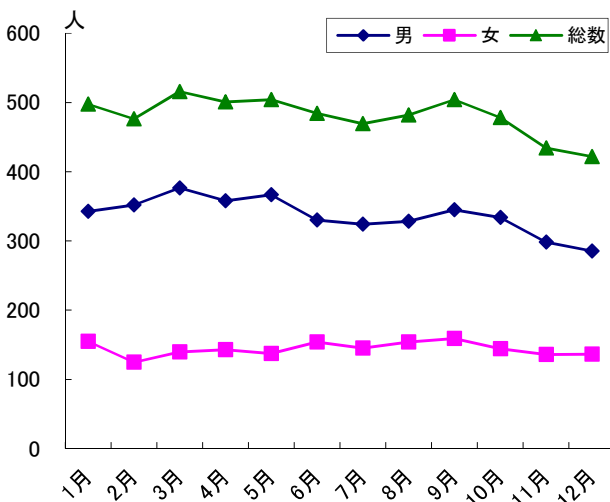


図18 H24～28年における性別月別自殺者数
（千葉県）

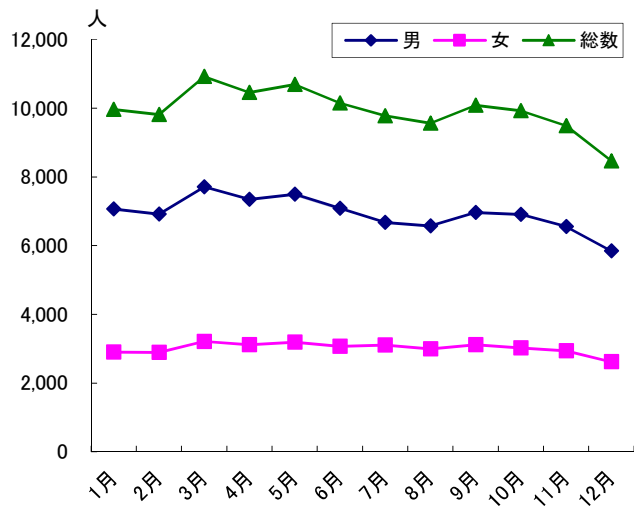


図19 H24～28年における性別月別自殺者数
（全国）

※月の日数差の影響を除くため1ヵ月を30日と計算して調整した。

8 自殺との関連が考えられる事象の状況

(1) 年齢階級

本県の自殺者について、平成19年～28年の10年間の年齢階級別の死亡率をみると、男性は40～60歳代に減少傾向がみられた。女性は10～30歳代及び80歳以上が平成26年以降2年連続で減少しているが、今後の動向に注目する必要がある（図20）。（資料編P5、24 統計表2、16参照）

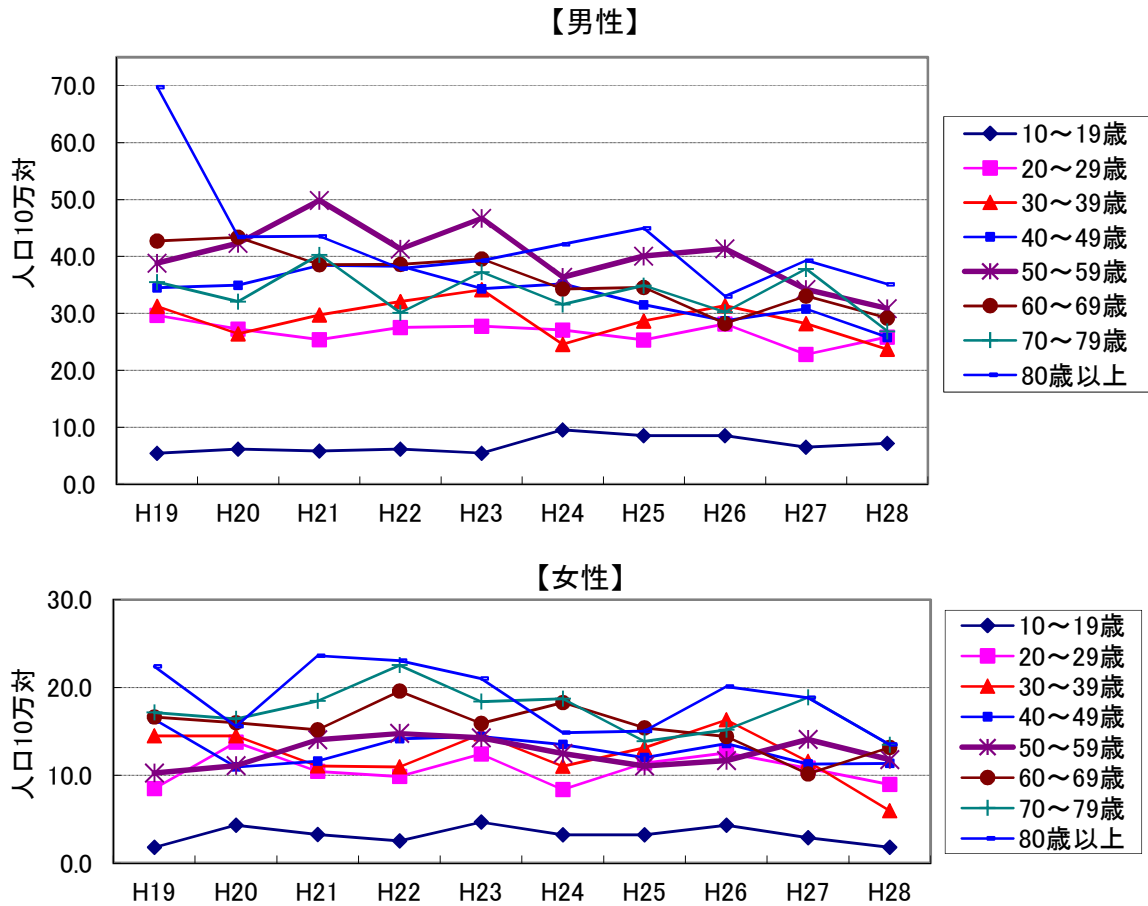


図20 年齢階級別自殺死亡率の年次推移(千葉県)

(2) 完全失業率

経済的要因は自殺の原因・動機のひとつであり、完全失業率と35～64歳の自殺死亡率の推移が類似している。（図21）。（資料編P5、24、25 統計表2、16、18参照）

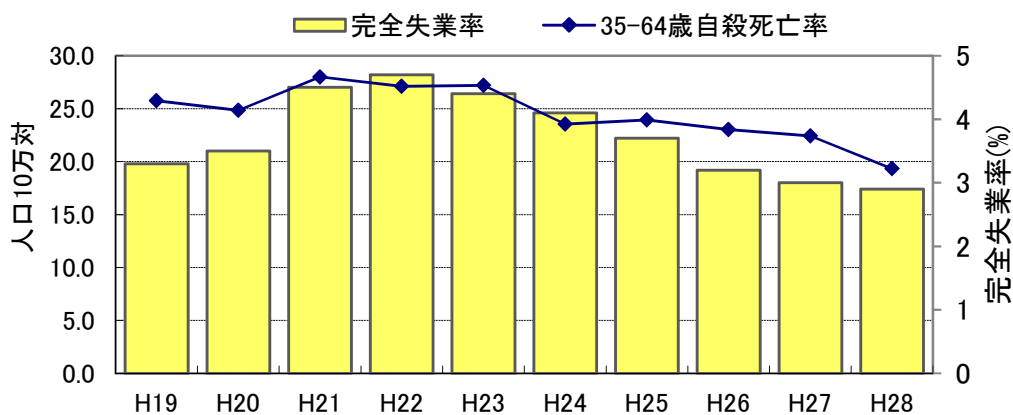


図21 完全失業率と35～64歳自殺死亡率の年次推移(千葉県)

(3) 精神保健に関する電話相談等

県精神保健福祉センターでは、精神保健に関する対面相談や電話相談を実施している。

対面相談では、延人員の合計が 26 年度 2,091 人、27 年度 2,051 人、28 年度は 1,898 人で、前年度より約 7.5%の減少となった。内訳をみると、26 年度以降はその他を除いて、“思春期”の相談が最も多いが、28 年度は前年度と比べ約 23%減少していた。“自殺関連”の相談は 28 年度 19 人であった。

電話相談では、合計が 26 年度 9,549 件、27 年度 9,395 件、28 年度は 6,946 件で、前年度より約 26%の減少となった。内訳をみると、23 年度以降はその他を除いて、“心の健康づくり”の相談が最も多いが、28 年度は前年度と比べ約 40%減少していた。“自殺関連”の相談は 28 年度 282 件であった。(表 9)。

表 9 精神保健福祉センターへの相談内容

表 9-1 対面相談

(年度)	実人員	延 人 員											再掲			
		老人精神保健	社会復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	思春期	心の健康づくり	うつ・うつ状態	その他	計	ひきこもり	発達障害	自殺関連	犯罪被害	
H21	1,364	628	2,608	96	69	118	291	709	417	4,936	330	68	76	5		
H22	1,317	85	670	97	89	137	589	227	387	2,281	80	22	77	2		
H23	1,227	60	583	94	15	135	723	384	403	2,397	58	17	48	7		
H24	1,294	40	468	83	35	184	408	166	673	2,057	60	19	57	2		
H25	1,314	37	248	80	30	233	401	126	754	1,909	158	45	35	6		
H26	1,351	56	259	80	71	15	346	277	146	841	2,091	92	53	27	0	
H27	1,304	66	219	101	107	31	386	280	137	724	2,051	2	42	0	0	
H28	1,396	66	290	103	64	42	298	225	86	724	1,898	89	46	19	2	

千葉県衛生統計年報より

表 9-2 電話相談

(年度)	老人精神保健	社会復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	思春期	心の健康づくり	うつ・うつ状態	その他	計	再掲			
											ひきこもり	発達障害	自殺関連	犯罪被害
H21	46	1,023	79	77	123	1,914	1,189	3,994	8,445	294	112	342	24	
H22	33	947	101	63	159	759	2,510	3,805	8,377	282	270	370	30	
H23	52	1,068	79	41	172	2,232	1,757	2,626	8,027	184	145	229	32	
H24	46	1,701	69	76	148	2,762	1,164	3,231	9,197	150	154	298	36	
H25	43	2,028	101	67	151	2,619	1,074	3,421	9,504	105	150	166	22	
H26	48	1,974	99	127	75	155	3,165	1,283	2,623	9,549	125	147	282	19
H27	48	1,955	77	89	105	172	3,081	1,101	2,767	9,395	52	220	374	35
H28	113	498	187	170	92	345	1,835	873	2,833	6,946	108	238	282	29

千葉県衛生統計年報より

(4) 千葉いのちの電話への相談件数

平成 28 年の千葉いのちの電話の相談の受信件数は 17,844 件で、前年に比べ受信件数は 167 件増加していた。男性は 7,928 件、女性は 9,916 件で、前年比男性 241 件増、女性 74 件減であった。自殺志向件数は 2,460 件で前年に比べ 121 件減少していた。

千葉いのちの電話の相談の受信件数の内、月に 1 日（毎月 10 日）設けている厚生労働省後援自殺予防フリーダイヤルへの相談の受信件数は 705 件、前年に比べ受信件数は 9 件減少していた。男性は 414 件、女性は 291 件で、前年比男性 6 件増、女性 15 件減であった。自殺志向件数は 236 件で前年に比べ 24 件増加していた。

内容別相談件数と自殺志向の割合を以下に示す（図 22～23「社会福祉法人千葉いのちの電話」提供）。

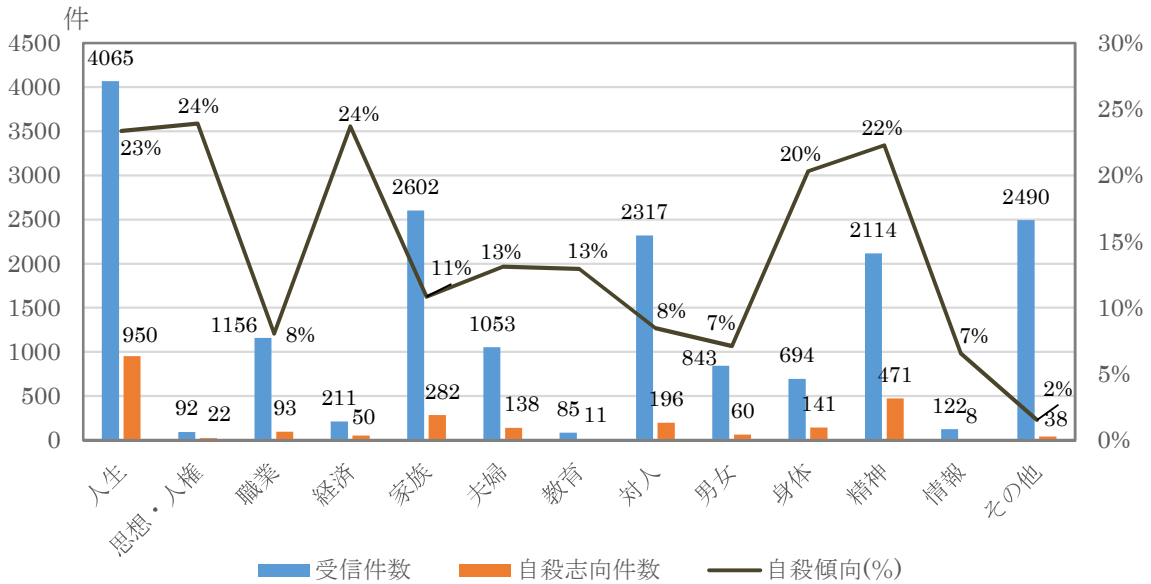


図22 電話相談内容別相談件数と自殺志向の割合

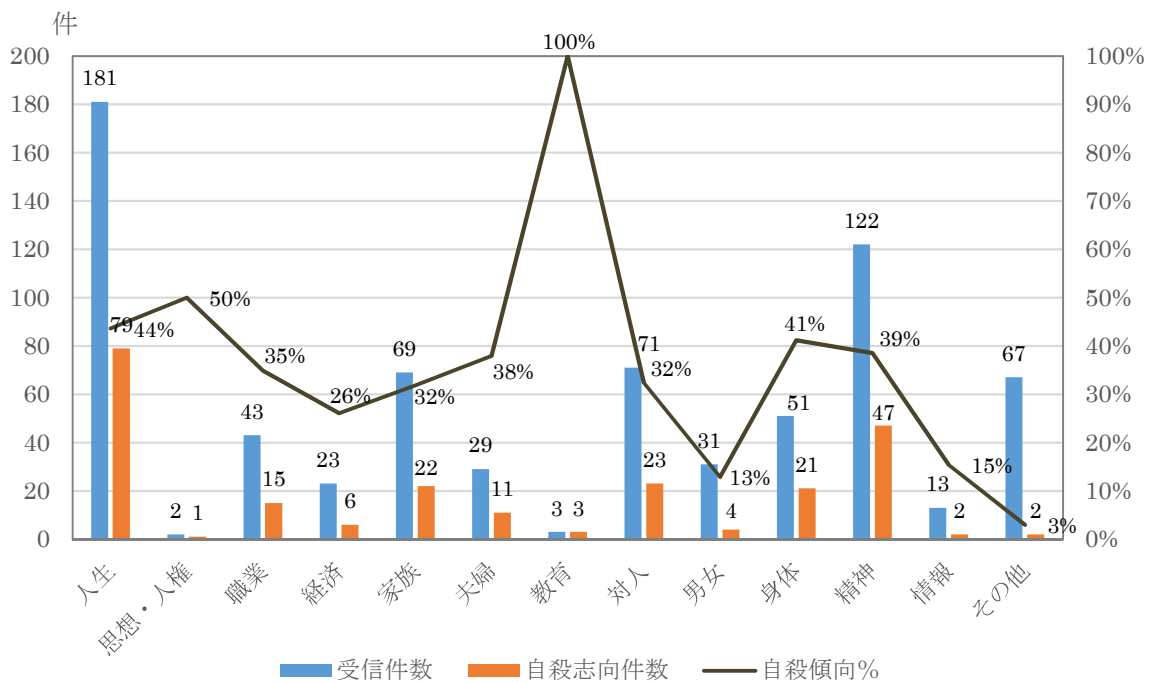


図23 自殺予防フリーダイヤル内容別相談件数と自殺志向の割合

(5) 救急搬送件数

自殺対策の重要な柱の一つとして、自殺未遂者支援が挙げられる。しかし、自殺未遂を含めた自殺企図の実態を把握するための正確なデータは得にくく、対策推進の難しい部分になっている。

現状で入手可能な自殺企図に関わる基礎データとして、平成 15 年～27 年の県内の事故種別救急出場件数と搬送人員の年次推移を作成し、自損行為による搬送件数と自殺者数との関連を検討した。

平成 27 年の全出場件数に占める自損行為による割合はおよそ 1%で、平成 22 年以降やや減少傾向であった。また、平成 27 年は自損行為による出場件数が 3,000 件、搬送人員が 2,000 人を下回り、平成 21 年をピークにやや減少傾向となっていた。

自殺者数との関連を見ると、毎年、自殺者数の 1.7～2 倍程度の者が自損行為により救急搬送されていた (表 10、図 24)。
(資料編 P26 統計表 19、20 参照)

表 10 事故種別救急出場件数及び搬送人員 年次別推移

区分 年	出場件数					搬送人員					(参考) 自殺者数
	出場件数計	急病	交通事故	自損行為	その他	搬送人員計	急病	交通事故	自損行為	その他	
H15	237,440	137,691	32,942	3,245	63,562	223,873	128,515	36,623	2,265	56,470	1,326
H16	245,733	143,135	33,065	3,187	66,346	229,843	132,997	36,096	2,238	58,512	1,231
H17	259,838	154,805	32,141	3,305	69,587	242,326	143,961	34,699	2,365	61,301	1,318
H18	256,607	153,643	30,481	3,474	69,009	238,048	142,271	32,678	2,558	60,541	1,290
H19	258,189	155,746	29,791	3,582	69,070	237,839	143,278	31,595	2,633	60,333	1,294
H20	248,947	149,983	27,545	3,594	67,825	227,701	137,415	28,687	2,544	59,055	1,258
H21	250,187	151,963	27,590	3,839	66,795	229,045	139,657	28,616	2,714	58,058	1,326
H22	268,683	165,505	27,858	3,575	71,745	245,163	151,734	28,675	2,513	62,241	1,329
H23	280,482	173,446	28,537	3,518	74,981	254,621	158,825	28,982	2,393	64,421	1,370
H24	284,154	177,045	27,888	3,203	76,018	257,394	161,769	28,378	2,167	65,080	1,215
H25	294,367	183,277	27,206	3,243	80,641	264,224	166,697	27,564	2,172	67,791	1,217
H26	297,758	185,448	26,083	3,074	83,153	265,818	168,025	26,089	2,020	69,684	1,215
H27	305,160	191,162	25,406	2,989	85,603	271,745	172,935	25,387	1,957	71,466	1,182

救急出場件数及び搬送人員：千葉県防災危機管理部消防課 消防防災年報より
自殺者数：人口動態統計より

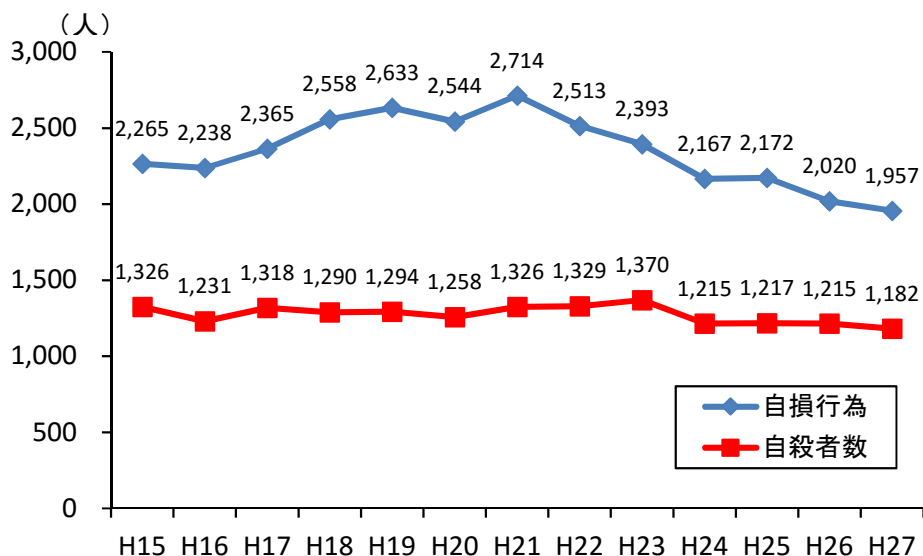


図 24 自損行為による救急搬送人員と自殺者数の推移